

9月定例会 決算に関する特別委員会

決算に関する特別委員会は、9月11日から12日までの2日間にわたり、平成23年度決算関係議案9件、平成24年度補正予算関係議案7件、条例関係議案4件、その他議案2件を審議しました。審査の過程では、多数の質疑事項があり十分に審議が尽くされ、その中で多くの要望事項が提言されました。



決算に関する特別委員会
委員長 長坂 良治

委員長報告

- 1 地域経済の活性化を図るため、起業化支援事業の発展的継続が望まれる。
- 2 観光の町として観光客誘致のためにも、草刈等、美観対策に万全を期すべきである。
- 3 町の特産品の販売方法を検討すべきであり、第三セクターも含めて、インターネットを活用した販売促進が急務である。
- 4 行政組織(町づくり戦略室、農林水産課等)の見直しを検討すべきである。
- 5 鳥獣被害対策を総合的に推進すべきである。
- 6 耐震化対策、リフォームなどの建物改修に一定の補助等支援策を考えていただきたい。
- 7 町の指定ごみ袋は、容量、扱いやすさなど利便性を考慮したデザインに変更する必要があるのである。
- 8 警報発令時の放送を含めて、防災無線の運用面の改善が必要である。

委員会質疑応答

問：小野(信) 委員
町税の滞納繰越分が減少しつつあり、税務課はよく頑張っていると思う。

答：税務課長
その中で、たばこ税は大幅に伸びているがその内容は、
売上本数では昨年より減っているが、たばこ税の税率が平成22年10月から1本が3・3円から4・6円と大幅に上昇し、税収は720万円ほど増えている。

問：藤田委員

将来的に交付税の減が考えられるが、今後の地方交付税の経緯と見通しは、
答：副町長
当町は産業の形態等税

問：小野(信) 委員

観光客誘致のため、道路沿い等の草刈りを実施し、きれいな町づくり、住んで良かった町づくりをしていくべきだと思います。
美観対策はどのような考えなのか。
答：町長
住んで良かったきれいな町づくりは、スローガンとして非常に方向性は良いと思う。

取の基礎部分が弱いので、その分地方交付税等の依存財源で補っている状況にある。国も地方交付税と税収の関連性から、交付税総枠を減少している傾向は、今後も続くと考えられる。
答：企画財政課長
合併算定替えの制度が終了すれば、今より5億円位の減額になる見込みである。

問：菊池委員

町内にある保育園の統廃合に向けた考えはあるか。勇気を持って進めてほしい。
答：町長
国で保育所の定員を定めているので、町はそれに応じていかなければならない。
また、人口が6千人、7千人になったときのビジョンを描き、今後地元

に合った町づくりをしていかなければならない。

問：大高委員

役場職員採用の手順はどのようになっているか。
答：総務課長
町の広報、インターネット等で職員採用のお知らせをし、9月中旬に一次試験を行い、その後の二次試験後、採用することになる。

問：副町長

当町の場合は、初級試験を実施しており、一次試験合格者に対し、二次試験を行っている。二次試験は、7分ぐらいの面接試験及び論文で、その結果を踏まえ、内部で検討し採用している。

問：工藤委員

起業化支援事業補助金の事業内容と対象はどの

ようなものか。また、予算的には何年頃まで続けるつもりなのか。
答：企画財政課長
この補助金は今まで全然商売をやっていない人が新しく起業する場合、それから、今までやっていない人でも、別な分野に進出する場合には該当になる。

問：企画財政課長

この補助金は今まで全然商売をやっていない人が新しく起業する場合、それから、今までやっていない人でも、別な分野に進出する場合には該当になる。予算的には、毎年1件の満額分で50万円だが、該当する人がいれば補正予算で対応することもできる。今後はできるだけ続けていきたいと考えている。

問：小野(信) 委員

役場の組織体制を問う。たとえば、農水産物の六次産業化を推進している中で、農林水産課の分担の中に戦略的な部門が入っていないのはどうしてか。
答：副町長
大町警報発令時に、定時の放送をしている。警報に関係ない放送は、時と状況を考えて放送するような配慮が必要ではないか。
答：総務課長
今後、緊急放送した場合、緊急放送に切り替える必要があるのではないかと。注意して放送したい。

問：小野(文) 委員

今年もエゴノリは豊漁と聞く。なかなか買いうるが、前年度の収量、

答：町長
何が何でも組織系統の中に押し込むこと自体、違和感がある。今後もう少し発展的にするために、はどうしたらいいのか、庁内で研究したい。

問：堺委員

大雨警報発令時に、定時の放送をしている。警報に関係ない放送は、時と状況を考えて放送するような配慮が必要ではないか。
答：総務課長
今後、緊急放送した場合、緊急放送に切り替える必要があるのではないかと。注意して放送したい。

問：小野(文) 委員

今年もエゴノリは豊漁と聞く。なかなか買いうるが、前年度の収量、

問：工藤委員

青い森農林振興公社が負債を抱えてしまったが、町でも出資していると思うが、個人地権者の被害

価格の比較を把握しているか。
答：農林水産課長
今の価格は確認していない。今年も相当の水揚げがあり、漁業者のために値段を付けたいということ、漁協、漁連が一緒に買って全漁連に買い手を探すための要請をするという。

問：農林水産課長

今の価格は確認していない。今年も相当の水揚げがあり、漁業者のために値段を付けたいということ、漁協、漁連が一緒に買って全漁連に買い手を探すための要請をするという。去年のエゴノリは31トンの水揚げで、平均単価が2635円で金額は8200万円である。今年もさらに豊漁で、去年の在庫も抱えており、値段がつかないのではないかと心配しているが、関係者の努力に期待したい。

問：小野(文) 委員

観光客誘致のため、道路沿い等の草刈りを実施し、きれいな町づくり、住んで良かった町づくりをしていくべきだと思います。
美観対策はどのような考えなのか。
答：町長
住んで良かったきれいな町づくりは、スローガンとして非常に方向性は良いと思う。

問：副町長

また、駅前開発、町道32号線の道路改良等では、誰が考えても協力してもらえればよいことだが、その意識の差はかなりあると思う。
また、財源的なこともあるし、将来的に今今のことでなくて考えていかなければならない大きな問題だと思つ。
答：副町長
当町は海岸線が70数kmで、風合瀬、吾妻の浜、岩崎漁港付近の海岸は、波が来るたびに流木が寄つて大変見苦しく、観光

地なのかと言われることもある。この流木を清掃するためビーチクリーナー(トラクターの後ろに集積できる機械)を導入することも考えている。

また、深浦に入ってくる東北電力の深浦サードビルセンター付近の製材所の所が汚いため、町で購入して樹木を植えるなどとして、観光地の入口をきれいにしたい。さらに、駅前をきれいにしたい。

看板は、色・デザイン・大きさを統一して美的にし、観光地にふさわしい看板にしたい。

問：菊池委員
大間越地区に入って一番最初に見える町の観光施設「大間越ロマンの里」は、今後どういう方向性になるのか。

答：町長
施設が非常に老朽化している。そのうち耐震改修が必要な施設がある。保育園・老人ホーム等は、昭和56年6月以降の建築物では耐震改修は必要がないようである。民家等は、4782の木造・非木造の建物がある。昭和56年5月以前の建物は3098あって、耐震化率は35%である。

問：藤田委員
町に対して、農業・漁業全体の一次産業振興策の要望事項が多数あると思う。経済情勢が悪い中でその優先順位、必要性はどのように判断しているのか。

答：町長

農業・漁業のいろんな要望等が上がってきている。限られた財源の中で優先順位も付けながら、財政規律を守るためにも有利な起債事業を選択して、農業・漁業に関わらず各担当課の緊急性に応じてやっていきたい。

問：工藤委員

町には特産品認定が46品目、特産物が3品目、新規認定もあるようだが、その売れ筋を把握しているのか。

答：町長
また、特産品開発には時間とお金も必要なので頑張っている町民をバックアップしていただきたい。

問：藤田委員
深浦の特産品46品目、特産物3品目、新しく深浦旬眠サーモンとかいろいろなものがあるが、増えすぎてきた。

その販売場所は、深浦駅前、十二湖駅構内、十二湖駅の前のお店に置いてあるが、つるつるわかめのようにお客様が持ち帰れるようなものはよく売れているが、ドレッシング等は販売額が伸びていない。

今後は、容器を工夫するなどし、加工場も活用しながら、販売先を考えていきたい。

答：町長
特産品のドレッシングは、大手メーカーのように大量販売するのではなく、安全・安心で作った人がわかるような商品、一次加工品の成分の中等、丁寧に表示し販売していきたい。

問：藤田委員
有害駆除委託料、鳥獣被害防止対策協議会補助金の中身を聞く。

サルの駆除は、土日関係なく朝早くから活動しているため高く評価すべきだと思ふ。安全・安心な地域づくりのため、猟友会の待遇も含めてこの問題は重く考えてほしい。

長
協議会の内容は、例えば発信機を付けてサルの行動を把握するような活動経費、それから専門の方に来てもらっているもの、助言・アドバイスしてもらった経費、町の臨時職員2人を雇用しての報酬、サルの追い払い活動の経費があり、1098万7千円である。



▲里に下りてきた猿

また、猟友会関係では有害鳥獣の駆除の委託料

問：塚委員
国道の橋梁は、町の関与はどうなっているのか。また、橋梁の耐用年数は何年か。

答：建設課長
県では長寿命化修繕計画を定めて橋を補修している。町では町道は長寿命化修繕計画を定めて橋を補修している。

橋の耐用年数は、鋼橋は45年、コンクリート橋は60年が目安となっている。脇ノ沢橋は、地域の声として県と相談したい。

問：大高委員

耐震計画の調査を、町では実施しているのか。また、建物改修に支援策を考えているのか。

答：建設課長

平成22年10月に町耐震改修促進計画を策定している。この計画は、対象となる昭和56年5月の建築基準法改正以前の建築物を対象とし、特定建築物の役場・学校・体育館は14棟で、町民体育館は耐震改修が必要という内容である。

不特定多数の者が利用する建築物のホテル・旅館等は3棟有



▲耐震工事を行っている町民体育館

り、そのうち耐震改修が必要な施設がある。保育園・老人ホーム等は、昭和56年6月以降の建築物では耐震改修は必要がないようである。民家等は、4782の木造・非木造の建物がある。昭和56年5月以前の建物は3098あって、耐震化率は35%である。

問：菊池委員

国民健康保険の一人当たりの保険料は県下で何番目か。また、高齢化率が50%になると医療費がかさんでくるが、一般会計からの繰入金はいままで堅持できるのか。

答：町民課長

国民健康保険料は、県下では最低で40番目である。繰入金は、平成23年度は8000万円を繰入しており、町の国保運営協議会でも協議をしなければならぬと考えている。

また、国の政策を見極めながら検討していく。

問：菊池委員

水道が漏水した場合の料金はどうなるのか。

答：水道課長

メーター検針の際に異常があった場合は、納入通知書を発行する前に再度メーター検針をし、漏水があるかどうかを確認してから本人に連絡し、漏水したと思われる3分の2は漏水減額する。

問：小野(文)委員

町の指定ごみ袋のデザインの変更を考えたことがあるか。また、容量・利便性を検討する必要があるのではないか。

答：町民課長

大戸瀬地区の燃えないごみ収集車の更新はいつごろか。

答：町民課長

ごみ袋のデザインは、深浦町だけでなく鰯ヶ沢町も同じものを使っているため、今後鰯ヶ沢町と

協議し、デザイン・容量等を検討したい。

ごみ収集車は、平成24年度に予算計上済みなので、納車は12月の予定である。

問：藤田委員

農林水産課は仕事量が増えているため、かつての水産課のように別なセクションを持つべきだと思ふ。また、町づくり戦略も、より地域性のもを取り上げるセクションにしてほしい。役場の課の機構を考えてもいいのではないか。

答：町長

全国的に地方公務員が削減されている。そのうちで国では事業を全部地方に丸投げしてきている現状。あつぱあつぱになっているのに、公務員は削減。

一過疎の町ではいろいろ

ろなことがあるため、大枠の中で考えていかなければならないと思ふ。

問：工藤委員

精神障害者の支援体制はどのようにしているのか。

答：地域包括ケアセンター事務長

精神障害者対策は、毎週1回岩崎のふれあい創造の館でレクレーションをしたり、話し合いをしている。その参加者は5人から7人である。

また、異常な行動や家族間のトラブルがあり、町に通報があった場合は、保健師が対応している。場合によっては、精神病院に同行し家族の了解を得れば入院というケースもある。

さらに、民生委員等地域の方から情報をいただき、訪問して状況を把握するようにしている。